

## 「10月1日 三世代平等長寿社会の日」宣言 日本丈風の会

平和裏に迎える「高齢化」を21世紀の国際的潮流と見通した国連は、20世紀末の1999年を「国際高齢者年」とし、10月1日を「国際高齢者デー」と定めて、世界の高齢者が自立して「すべての世代のための社会をめざして」の活動に参加するよう呼びかけました。

その日から20年、「高齢化」において先行するわが国は、その先進的なモデル事例を期待されつつ、「医療・介護・福祉・年金」といった「高齢者対策（ケア）」においては公私あげて対応して成果を収めてきました。しかしながらその片翼であり、世界に先例のない「高齢社会対策」においては、わがこととして参加して実行する「高年世代」不在の時期には対策構想は用意してあるものの進展をみませんでした。

これからの20年、世界最速で高齢化率25%に達したわが国は新しく「高年世代」を成立させて、青少年、中年世代とともに前人未到の「三世代平等長寿社会」をめざして、だれもが後人から敬愛され安心して尊厳をもって生涯を送れる国際的モデル事例を達成せねばならないのです。

- 1 家庭で社会で、三世代を意識しつつ人生の三期をすごす。
- 2 高年期にそれぞれが保持する知識・技術・資産・人脈を活かして新たなモノ・サービス・しくみをこしらえる。
- 3 生活圏の三世代化をすすめる。
- 4 国のしくみとして内閣府に専任の高齢社会担当相を置く。
- 6 世界初の構想「100歳社会」グランドデザインを発表。
- 5 公共放送NHKに第三局として高齢・文化局を置く。
- 7 「体・志・行」の三元ケアのために自治体に「包括支援ケア」「生涯学習」「シルバー人材」の3センターを設ける。
- 8 平和憲法100年の国際式典を2047年におこなう。主宰者は戦後生まれの平和団塊世代の代表。
- 9 人権として男女平等を掲げつつ意識として女尊男卑を優先する。
- 10 移動における三世代化。ハードの車、ソフトの道路やルール。
- 11 住居の三世代同等同居を標準化。
- 12 三元ケア 五歳層 G型ライフサイクルを生活地盤に据える。